

令和7年6月

令和6年2024年度

自己点検および学校関係者
評価報告書

宇都宮ビジネス電子専門学校

1. 学校の現状

I. 学校の教育目標

1. 専門学校としての使命と目的

学校教育法第 124 条、及び第 125 条の規定に基づき、社会人として必要な教養と専門知識を有する有能な人材を育成し、工業及び商業経済の発展に貢献できる人材の育成を使命・目的とする。

2. 教育目標

「使命・目的」のもと、教育目標を下記のように定める。

- ・ 専門技術や技能の習得
- ・ 豊かな人間性と個性の伸張
- ・ 誠実で心豊かな人間性の育成
- ・ 広い視野と優れた創造性を育む
- ・ たゆまぬ努力と貪欲な研究心・向上心の育成

これらを育むことにより自信をつけさせ「社会での生きる力」を植えつける。

II. 重点的に取り組むことが必要な目標（教育重点項目）

1. 学生の「やる気」向上の実現

2. ドロップアウト・ゼロの実現

重点項目	評価項目	評価※
1-1	学生の「やる気」を向上させるための研修は行われているか	4

※ 4：適切、3：ほぼ適切、2：やや不適切、1：不適切

① 課題

- ・ 令和 6 年度において外部講師による「学生とのかかわり方」教職員研修を実施し、ケーススタディをもって具体的なケースを体得したが、維持継続していくことが課題である
- ・ 学生対応は即時性が重要視される。対応教職員のフットワークの良さが重要である

② 今後の対応または改善

- ・本校では縦割り（担任教員がクラス授業を主に実施）授業が中心。一部学科では非常勤講師が多く担当しているが、担任は学生とは当然ながら、担任と非常勤講師との連絡を密にして格差を低減していく。そのためにもコミュニケーション力をつける研修を実施していく。

< 学校関係者評価委員記入欄 >

- ・目標にするべき資格試験がたくさんあり、意欲がわくと思います。資格試験は本人の金看板になります。一生ものと思います。
- ・学生とのコミュニケーションを重点的に行い、更に維持持続していくことを希望します。
- ・研修後のフォローアップの必要性は大事と思う。

重点項目	評価項目	評価※
2-1	ドロップアウト対策は計画的に行われているか	4

※4：適切、3：ほぼ適切、2：やや不適切、1：不適切

① 課題

- ・ドロップアウトしていく学生たちの原因は様々。学力不足、人間関係のトラブル、学習への意欲希薄、病気、進路変更、経済困窮など。本校では学生たちの学習状況、学校生活状況の変化をいち早く察知するために担任教員と学生一人ひとりと月の中で個人面談を実施して信頼関係を深めている。教員の対話スキルのあり無しで効果に差が出る。

② 今後の対応または改善

- ・担任教員だけが学生や保護者対応するのではなく、副校長・校長を交えて状況に応じた学生、保護者面談を実施していく。
- ・登校できない学生の場合SNSを利用して学生と学校管理者が個別に対応する事も検討。

< 学校関係者評価委員記入欄 >

- ・個人の問題だけでなく、社会全体で取り組むべき課題と思います。特に経済的問題であきらめる事がない様、奨学金制度がありがたいと思います。
- ・改善策は適切だと思います。課題と今後の対応の2点を分析し各教員のヒアリングが必要ではないかと思います。

Ⅲ.評価項目の達成及び取組み状況

1.教育理念・目標

項目	評価項目	評価※
1-1	教育理念・目標・育成人材像は定められているか	4
1-2	学校における職業教育は何か	4
1-3	社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	4
1-4	学校の教育理念・目標・育成人材・特色・将来構想などが学生・保護者に周知されているか	3
1-5	各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに方向づけられているか	3

※4：適切、3：ほぼ適切、2：やや不適切、1：不適切

①課題

- ・学校の教育理念・目標・育成人材・特色・将来構想などは入学当初のガイダンスを通して学生に「学生の手引き」を使って説明しているが保護者には文書のみ配布になっている
- ・情報系分野において新傾向の技術を教育に活かすには、教員が技術を身につけるために生じる時間的ロスが生じる

③ 今後の対応または改善

- ・学校の教育理念・目標・育成人材・特色・将来構想を常時閲覧できる体制を整える
- ・業界団体への情報収集していく体制を検討する

<学校関係者評価委員記入欄>

- ・情報系分野での技術は日進月歩 100K 程度のスピードに感じる。身につまされる思いです。
- ・最新の専門技術の技能を習得し、またスペシャリストの人材育成を今、整えてはどうかと思われます。
- ・取得資格と卒業後の活躍イメージが連想できるよう学生や保護者に周知をすすめてほしい。
情報系だからではなく、業界ニーズと合わせて説明

2.学校運営

項目	評価項目	評価※
2-1	目的等に沿った運営方針が策定されているか	4
2-2	運営方針に沿った事業計画が策定されているか	4
2-3	運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか、また、有効に機能しているか	3
2-4	人事、給与に関する規定等は整備されているか	4
2-5	教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか	4
2-6	業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか	3
2-7	教育活動等に関する情報公開が適切になされているか	3
2-8	情報システム化等による業務の効率化が図られているか	4

※4：適切、3：ほぼ適切、2：やや不適切、1：不適切

①課題

- ・コンプライアンス体制について完全とは言えない部分がある
- ・全ての情報公開が行き届いているわけではなく適切と言い難い
また情報公開することに時間を要してしまうことが有る
- ・コロナの影響で良い方向に向かったのが情報システムの整備であるが
まだまだ教員間では利用頻度の格差がある。

② 今後の対応または改善

- ・教職員に対してコンプライアンスの勉強会を実施するなど底辺から意識改革をしていく等でコンプライアンス体制を整えていく。
- ・情報公開の在り方や時間短縮を模索して的確な対応をしなければならない。

<学校関係者評価委員記入欄>

- ・目標達成に向け組織をまとめていく事は、大変と考えます。
特にコンプライアンスは現在外せない問題。
- ・教職員に対して意識改革は必要不可欠です。
- ・コンプライアンス体制整備の重視
- ・教育活動等に関する情報公開をネットに掲載して、広く地域社会に公表。

3.教育活動

項目	評価項目	評価※
3-1	教育理念に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	4
3-2	教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた学科の修業年限に対する教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	4
3-3	学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	4
3-4	キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	3
3-5	関連分野の企業・関係施設等や業界団体との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか	3
3-6	関係分野における実践的な職業教育が体系的に位置づけられているか	3
3-7	授業評価の実施・評価体制はあるか	4
3-8	職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか	4
3-9	成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか	4
3-10	資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	4
3-11	人材育成の目標の達成に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか	4
3-12	関連分野における業界との連携において優れた教員を確保するなどマネジメントがおこなわれているか	3
3-13	関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取り組みは行なわれているか	4
3-14	職員の能力開発のための研修等が行われているか	4

※4：適切、3：ほぼ適切、2：やや不適切、1：不適切

①課題

- ・企業・関係施設等や業界団体との連携によるカリキュラムの作成・見直し等は、全学科で行われているわけではない。
- ・職業教育に対する外部関係者からの評価は完全に実施されているとは言い難いのが現状である。
- ・卒業生の就職先での仕事ぶりで評価を得られるが、就職担当が企業に訪問した際に企業の方から情報を得るなどリアルタイムに伝わらないことが課題である

② 今後の対応または改善

- ・ 今後は企業と調整してキャリア教育を充実させたい。
- ・ 関連分野における業界と接点がある非常勤の教員と情報共有して現状にマッチしたカリキュラムに位置づける。
- ・ 教員確保については企業や求人サイトとも連携して確保していく

<学校関係者評価委員記入欄>

- ・ 第三者的に見ても成果は有と思う。
- ・ 今後の対応また、改善策に期待します。
- ・ 評価の劣る項目を重視し、教育の視点のあり方、教育方法の工夫などを実施されることが望ましい。

4.学修成果

項目	評価項目	評価※
4-1	就職率の向上が図られているか	4
4-2	資格取得率の向上が図られているか	4
4-3	退学率の低減が図られているか	3
4-4	卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	3
4-5	卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用しているか	3

※4：適切、3：ほぼ適切、2：やや不適切、1：不適切

① 課題

- ・ 進学目的意識が低い学生が増加した傾向にあり、入学後に目的意識向上に向けた指導をするがままならず退学者が増える傾向がある
- ・ 学校斡旋で就職した学生に関しては、企業から状況を得られる。離職した場合は把握できていない。

② 今後の対応または改善

- ・ 今後、就職先企業とも連携を図り、卒業生の活躍の把握と評価を確立するための仕組みづくりを行う。
- ・ 独立している卒業生に、現況報告を依頼して活躍の把握に努め在学生の進路決定に役立たせる。
- ・ 学ぶ業界の将来性や、やりがいを熟知させ学習意欲を高めていく

<学校関係者評価委員記入欄>

・ 沢山の卒業生の中でも社長になっている人、事業成功者いると思います。私が知っている方で、警察官で拳銃の名手がおります。沢山アピールしましょう。

・ 評価の劣る項目を今後も重視し対応と改善を期待します。

5. 学生支援

項目	評価項目	評価※
5-1	進路・就職に関する支援体制は整備されているか	4
5-2	学生相談に関する体制は整備されているか	4
5-3	学生に対する経済的な支援体制は整備されているか	4
5-4	学生の健康管理を担う組織体制はあるか	4
5-5	課外活動に対する支援体制は整備されているか	3
5-6	学生の生活環境への支援は行われているか	4
5-7	保護者と適切に連携しているか	3
5-8	卒業生への支援体制はあるか	4
5-9	社会のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	3
5-10	高校・高等専修学校との連携によるキャリア教育・職業教育の取組みが行われているか	3

※4：適切、3：ほぼ適切、2：やや不適切、1：不適切

①課題

・ 保護者と適切な連携に関しては、年2回（前期・後期）の通知で報告しているものの、その他は欠席が目立つなど特定の学生のみになっているのが現状である。

・ 一部の学科では、社会のニーズを踏まえた教育環境が整っているが全てにおいてとはいえない。

・ 高校・高等専修学校との連携によるキャリア教育・職業教育の取組みは、まだ不十分といえる。

②今後の対応または改善

・ 保護者との適切な連携に関しては、今後、保護者会の実施に向け検討していく。

・ 全ての学科において、社会のニーズを踏まえた教育環境が整えられるように今後研究して実践していく。

・ 今後、市内の高校と連携を図りキャリア教育・職業教育を充実させるための専門学校としての役割りを全うする。

<学校関係者評価委員記入欄>

- ・進路、就職に関しては多方面からも良い話を聞いております。
- ・今後の対応、改善の通りで良いです。
- ・保護者との連携は、学生の指導において大きな助けになる情報交換の機会として大切だと思いますので期待したいです。

6.教育環境

項目	評価項目	評価※
6-1	施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	4
6-2	学内外の実習施設、インターシップ ^o 、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	3
6-3	防災に対する体制は整備されているか	3

※4：適切、3：ほぼ適切、2：やや不適切、1：不適切

① 課題

- ・IT設備に関して機器の更新時期を検討し、新たな機器に更新しているが、すべてのIT設備を更新するには時間を要する。
- ・インターシップ^oの実現は医療秘書科を中心に実施。
- ・大規模な災害が発生した場合を想定して、学生避難など安全第一を考えていかなければならない。

② 今後の対応または改善

- ・施設・設備に関して機能の調査を実施しながら整備していく。
- ・医療秘書科以外でも、広げて再度実施していく。
- ・地域で行う防災訓練にも積極的に参加して、地域住民との連帯感を育み、学生の安全確保を最優先で考えていく。

<学校関係者評価委員記入欄>

- ・立地について
1号館から7号館に向けて宇都宮のど真ん中を通っていくのは、最高と思います。ある大学が那須の環境抜群の校舎が学生には不況とのこと、まわりに何も無い。
- ・施設・設備に関して機能の調査を整備していく事が重要だと思います。医療秘書科以外でも、再度実施を希望します。

7.学生の募集と受入れ

項目	評価項目	評価※
7-1	学生募集活動は適正に行われているか	3
7-2	学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	4
7-3	学納金は妥当なものになっているか	4

※4：適切、3：ほぼ適切、2：やや不適切、1：不適切

① 課題

- ・募集活動は適正に実施されているが、18歳人口の減少、大学に進学しやすい。就職しやすさなどの影響から募集活動に工夫が必要。

② 今後の対応または改善

- ・入学希望者が興味を持てるコースの設置とカリキュラム内容に工夫して一般に向けアピールしていく。
- ・本校の特徴である就職実績、資格試験合格実績を高めWeb PRに繋げていく

<学校関係者評価委員記入欄>

- ・人口減少時は大変と思いますが、学科数が多く魅力的と思う。
- ・オープンキャンパスと体験学習を更に期待します。
- ・入学希望者が興味を持てるコースの設置。年々変化していると思う。時代に合ったコースの新設に力を入れて欲しい。

8.財務

項目	評価項目	評価※
8-1	中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	4
8-2	予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	4
8-3	財務について会計監査が適正に行われているか	4
8-4	財務情報公開の体制整備はできているか	3

※4：適切、3：ほぼ適切、2：やや不適切、1：不適切

① 課題

- ・財政基盤の安定性は学校運営にあたり大切なことである。
18才人口減の中で本校を目指す人数は減少しているため今後全学科入学定員数の確保は厳しい現状がある。

②今後の対応または改善

- ・ 大学進学や就職の良さは今後永続的なものではないと思われる。
- ・ 授業の内容密度を更に高め、学生が欲しているものを追求し
- ・ 満足度を上げるために研究していく必要がある。
- ・ 財務情報公開に関しては、公開方法や公開範囲において今後検討しなければならない。

<学校関係者評価委員記入欄>

- ・ 授業の内容密度を高める事は、今後とも大切なことだと思う
- ・ 子供の人口減は仕方ないが、大学等との生徒取り合いに負けないうよう、差別化に頑張ってもらいたい。
- ・ 今後も安定した経営を続けてほしい。

9.法令等の遵守

項目	評価項目	評価※
9-1	法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	4
9-2	個人情報に対し、その保護のための対策がとられているか	3
9-3	自己評価の実施と問題点の改善を行っているか	3
9-4	自己評価結果を公開しているか	4

※4：適切、3：ほぼ適切、2：やや不適切、1：不適切

①課題

- ・ 個人情報保護のレベルが、教員個々に差がある。
- ・ 自己評価実施時期を前期及び後期終了後に実施しているが、学科コースにより各期の終了時期に違いがあり集計タイミングが遅れる場合がある

②今後の対応または改善

- ・ 教員研修などで、個人情報保護について意思統一を図っていかなければならない。
- ・ 自己評価実施時期の把握を担当のみでなく学校として把握し確認していく。

<学校関係者評価委員記入欄>

- ・ 個人情報等に関しては、どの職においても大変。
- ・ 自己評価結果と「対応と改善策」に同感です。
- ・ 第三者的立場から見て、適正な運営がされていると思う。
- ・ 個人情報の取り扱いは、年々厳しくなっているので、頑張ってもらいたい。

10.社会貢献

項目	評価項目	評価※
10-1	学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	4
10-2	学生ボランティア活動を奨励・支援しているか	3
10-3	地域に対する公開講座・教育訓練（公共職業訓練等含む）の受諾等を積極的に実施しているか	3

※4：適切、3：ほぼ適切、2：やや不適切、1：不適切

① 課題

- ・本来であれば、ボランティア活動及び地域の方に施設の利用を勧めていかなければならないが頻度が少ない。

② 今後の対応または改善

- ・以前に比べボランティア活動、教育訓練受け入れ要望の案内が増加している。積極的にボランティア活動参加や地域貢献のため学校の教育施設の提供を奨励する。

<学校関係者評価委員記入欄>

- ・ボランティア活動は率先垂範が一番。
- ・ボランティア活動に参加や地域貢献のために学校の施設の提供を歓迎します。
- ・いつの時代でも社会貢献、ボランティア活動は必要。心も身体も内面からの教育をして欲しい。